シリーズ人権教育　第１５２回

企業の社会的責任（ＣＳＲ）

ってなんですか？



企業に求められるものは？

　「ひとを大切にする企業」と聞いてあなたはどのような印象を抱きますか？

企業の一番の使命は、「利益を出すこと」です。しかし、利益のために何をやっても良いということではありません。大前提として「法を守る（法令順守）」という責任があります。

　その次の段階として、法定雇用率を超えて障害者を雇用するなど、法で定める義務を超える取り組みを行う倫理的責任や、災害時に社員をボランティアとして現地に派遣するといった積極的な社会貢献などがあります。

　こうしたことが、企業の社会的責任（CSR/Corporate Social Responsibility）といわれています。

イキイキした組織とは？

　今、人権に関して多くの企業が抱えている問題の一つに、ハラスメントがあります。

　昔の日本では、社長をトップに、役員→管理職→第一線で働く社員の順に偉いという意識がありました。しかし、現在は、このピラミッドを逆転させて一番上に顧客を置く考えに変わってきています。第一線の社員が頑張ってくれるから会社が利益を出し、社長として給料をもらうことができるのです。

　その第一線の社員を支援するのが管理職だという発想に転換していく必要があるのではないでしょうか。

こんな上司がいてくれたら

　部下に対して、「最近、仕事はうまくいってる？」、「あのお客さんの件、一緒に話し

に行こうか？」こんな風に仕事の合間に歩き回って、部下たちに一声かけてくれる上司がいたら・・・。

　このようにコミュニケーションに富んだ職場をつくり、部下が仕事をしやすい環境づくりを心がけることが、今求められるリーダーシップです。

みんなで一緒に取り組む

　このほかに、企業に求められる人権に関する取り組みとしては、社員のメンタルヘルスや男女共同参画などがあります。これらに共通するのは、互いの多様性を認め合い、互いに相手を尊重し合うことが重要だということです。

　企業の法令順守や人権尊重の取り組みも、上からの押し付けでは、空回りするだけで

す。社員が主体的に自分の問題であるととらえ、一緒になって改善に向けて取り組む

ことで働きやすい企業、ひいては人が大切にされ利益や成果をあげていく企業になるのではないでしょうか。

︻参考資料︼

「人と人、人と社会をつなぐ企業」（公益財団法人　人権教育啓発推進センター）

